



りゅうぎん決算発表資料

平成28年3月期

第24回（平成27年度）りゅうぎん紅型デザインコンテスト 大賞
「間『ま』」迎里 勝

■決算ハイライト

損益

- 連結：初の最終利益※100億円突破
- 単体：3期連続の増収増益

業容

- 資金量が2兆円の大台を突破

Topics

- (株)OCSを連結子会社化

※親会社株主に帰属する当期純利益

■決算の概要（単体）

3期連続の増収増益

（単位：億円）

	28年3月期		27年3月期
		前 期 比	
経常収益	402	+15	387
業務粗利益 (a)	317	+5	312
経費 (b)	224	+4	220
実質業務純益 (c=a-b)	93	+2	91
ネット与信コスト (d)	13	▲2	15
その他臨時損益 (e)	3	▲1	4
経常利益 (f=c-d+e)	83	+3	80
当期純利益	50	+8	42

※前期比は表上計算

■決算の概要（連結）

単体の要因のほか、OCSの子会社化等により増収増益

（単位：億円）

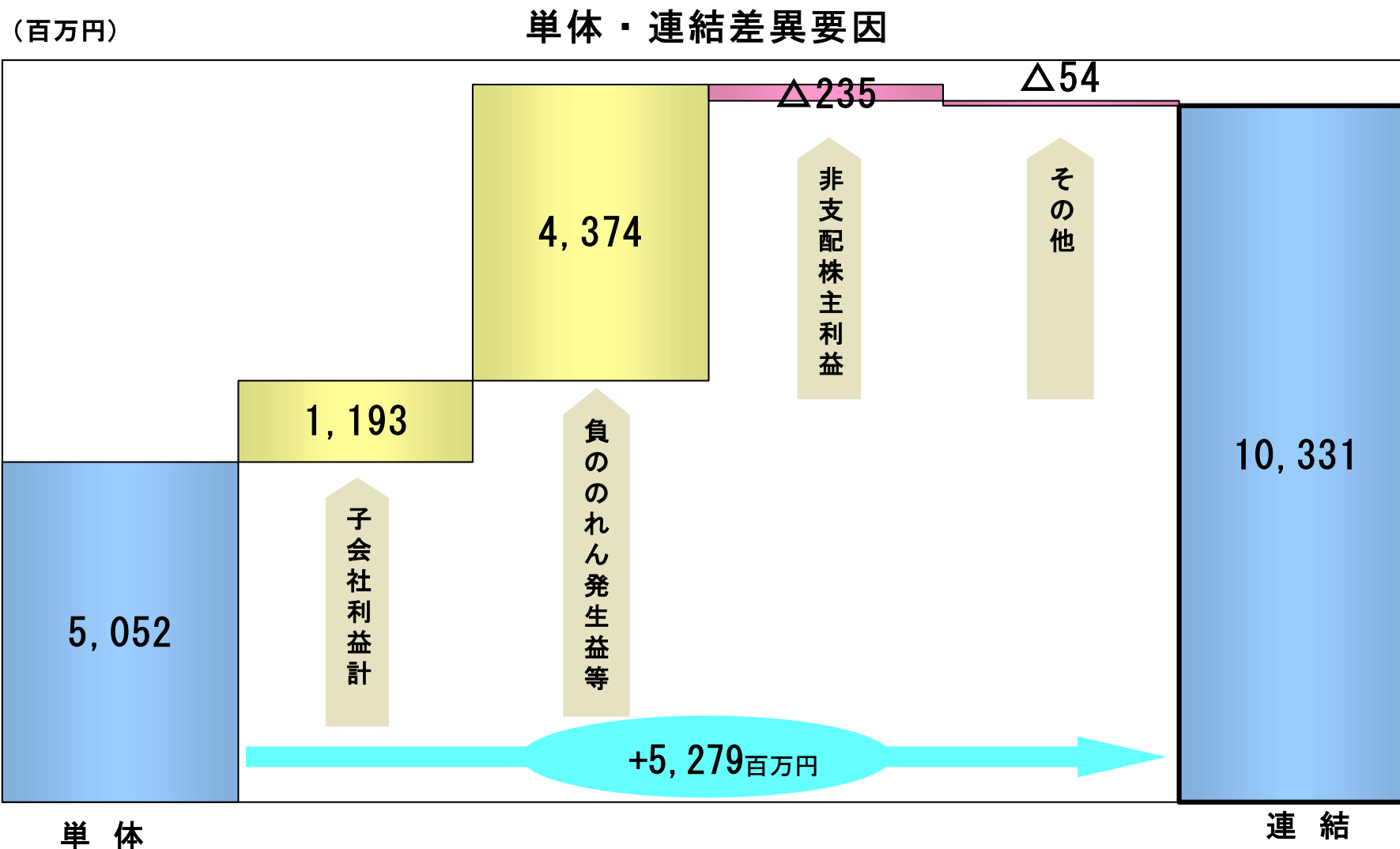
	28年3月期		27年3月期
		前 期 比	
経常収益	599	+49	550
経常費用	498	+44	454
経常利益	100	+5	95
特別損益	40	+35	5
うち負ののれん発生益等	43	+38	5
親会社株主に帰属する 当期純利益	103	+48	55

※「企業結合に関する会計基準」の改正により「連結当期純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」に改正されています。

※前期比は表上計算

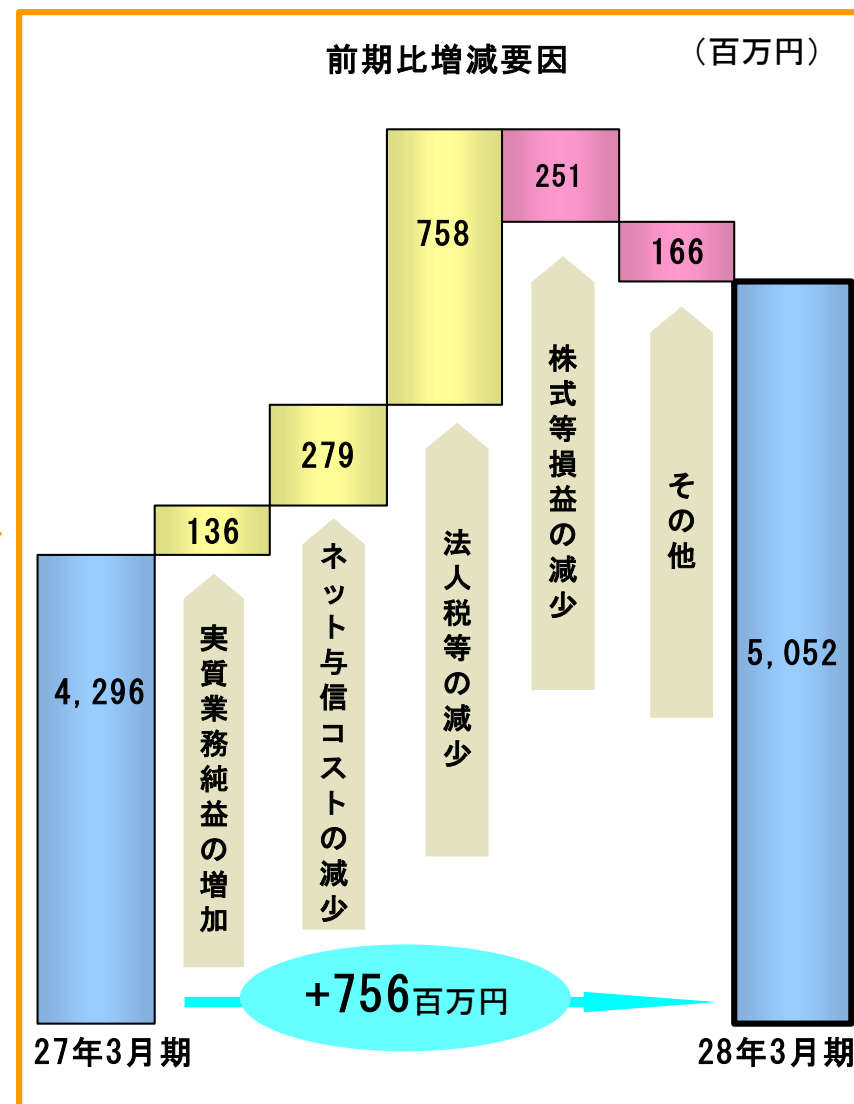
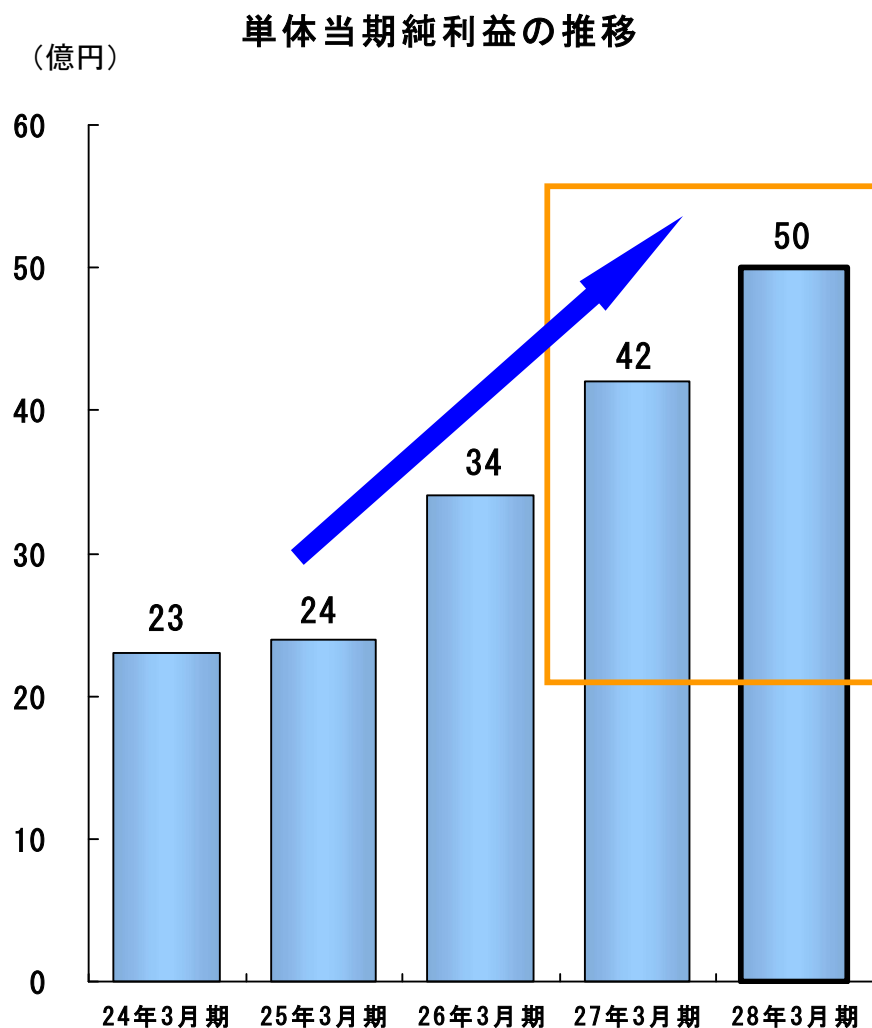
■ 当期純利益の単体・連結差異要因

OCSの連結子会社化等により連単倍率は2.04倍



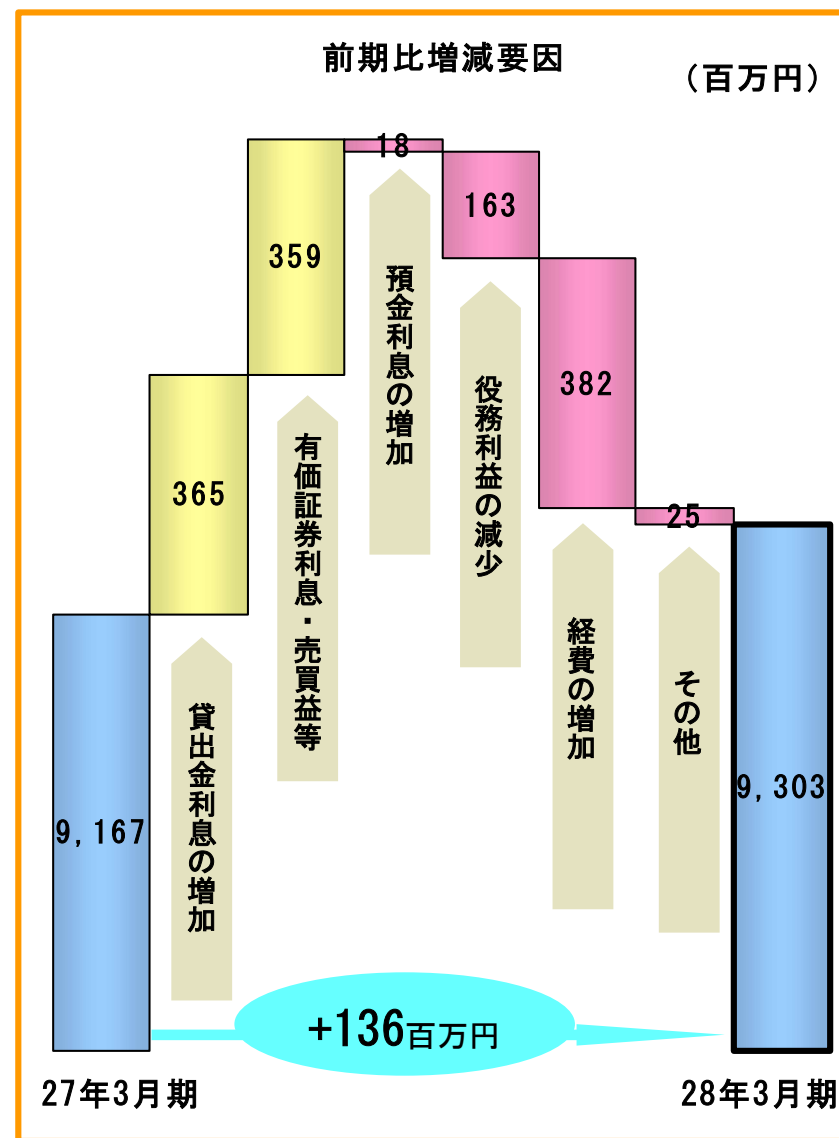
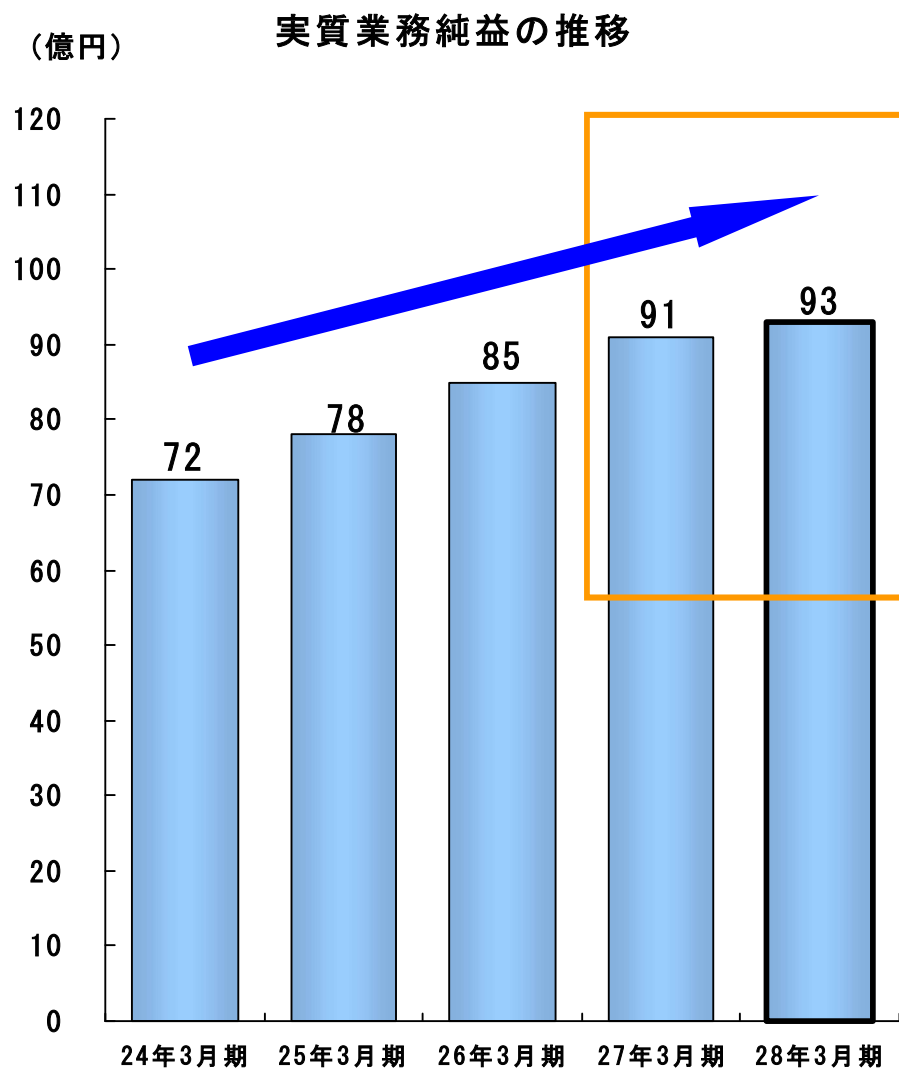
■ 当期純利益の増減要因（単体）

実質業務純益の増加、与信コスト・法人税等の減少により増益



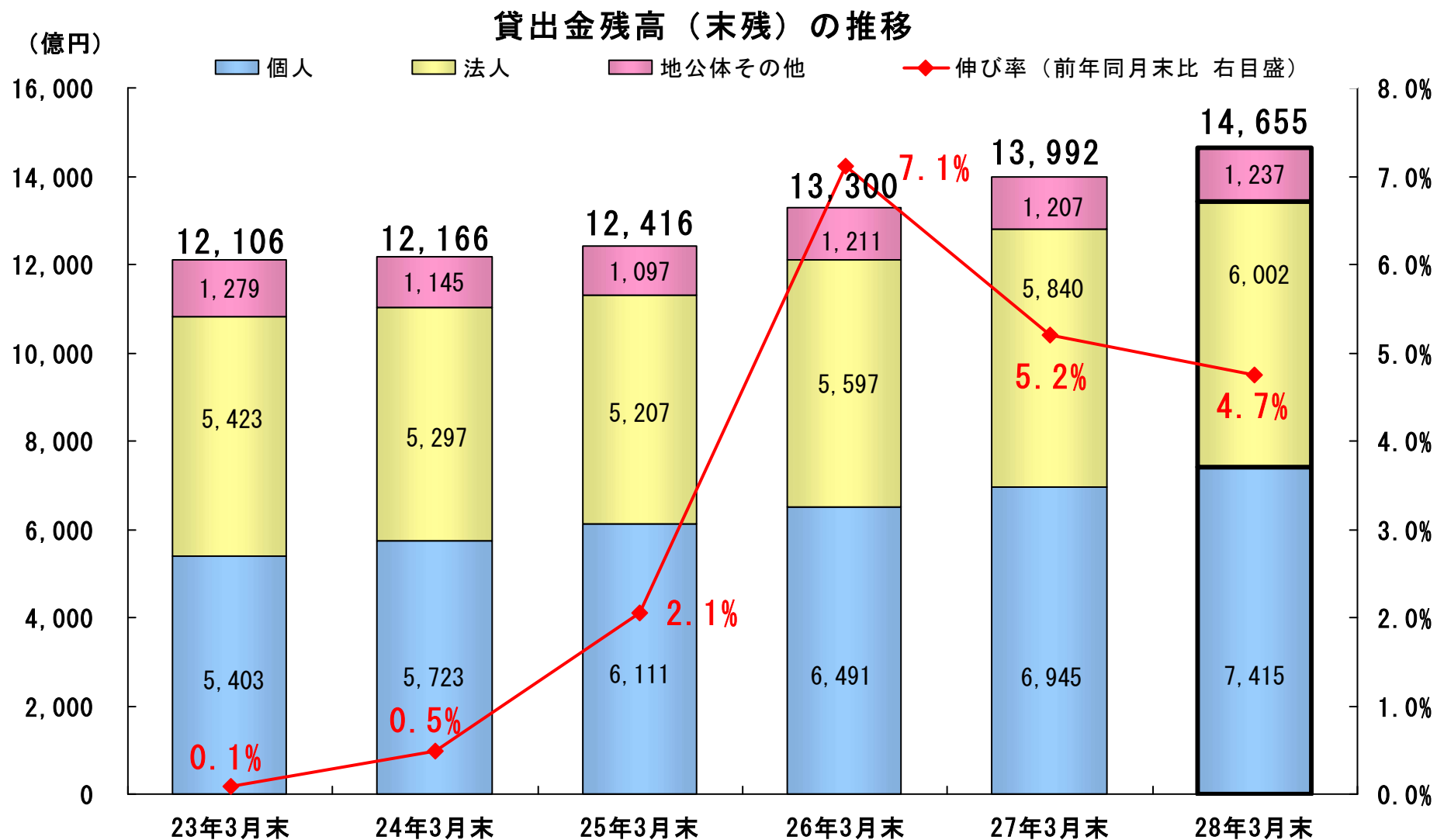
■ 実質業務純益の増減要因（単体）

貸出金利息・有価証券売買益の増加等により5期連続の増加



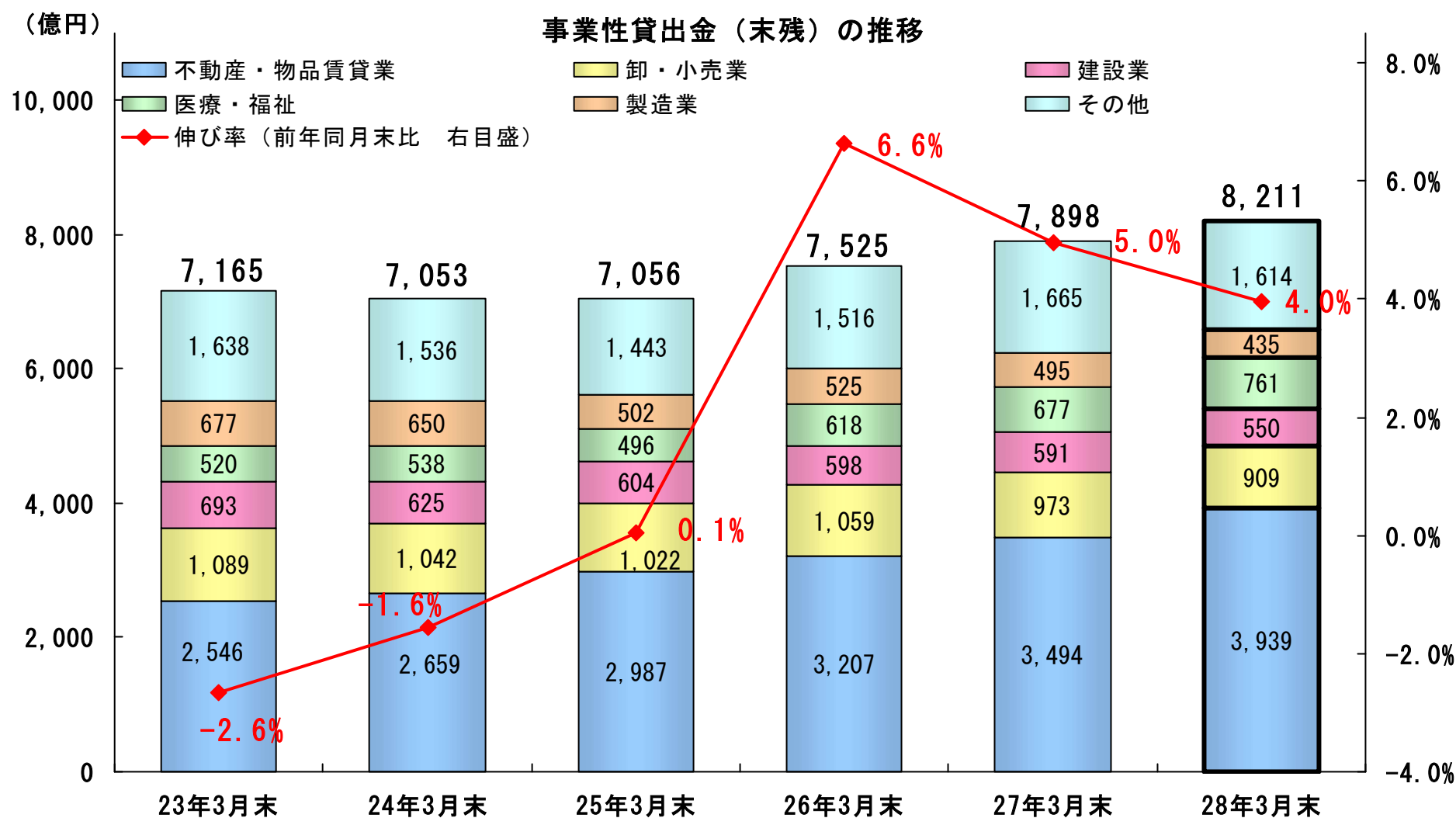
■貸出金（単体）

個人向け・法人向けとも順調に増加



■事業性貸出金（単体）

不動産業向けや医療福祉向けを中心に増加

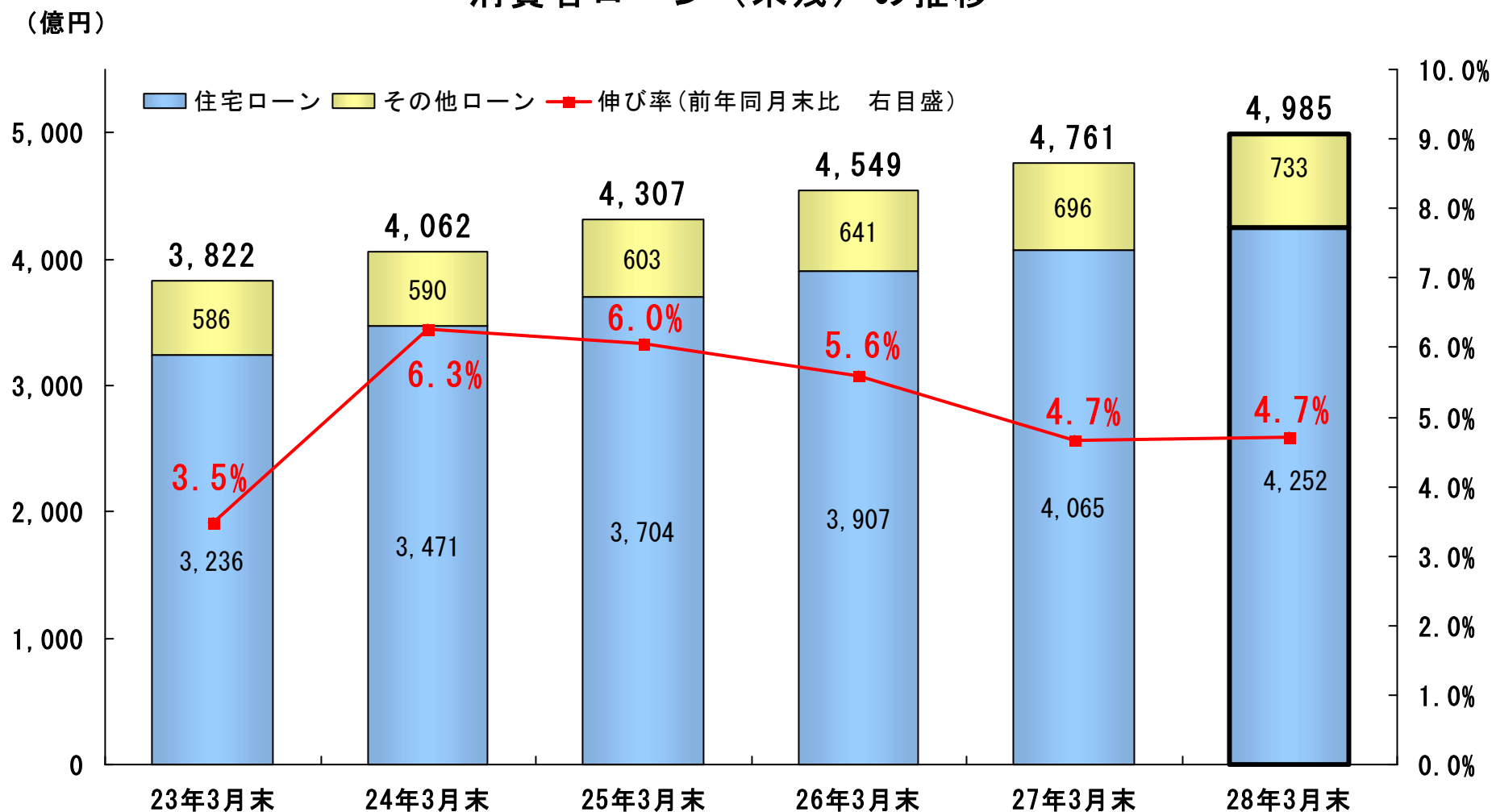


* 個人事業性貸出の取扱いが異なることからP7■貸出金の「法人」とは一致しない

■消費者ローン（単体）

新商品の販売や商品改定等により順調に増加

消費者ローン（末残）の推移

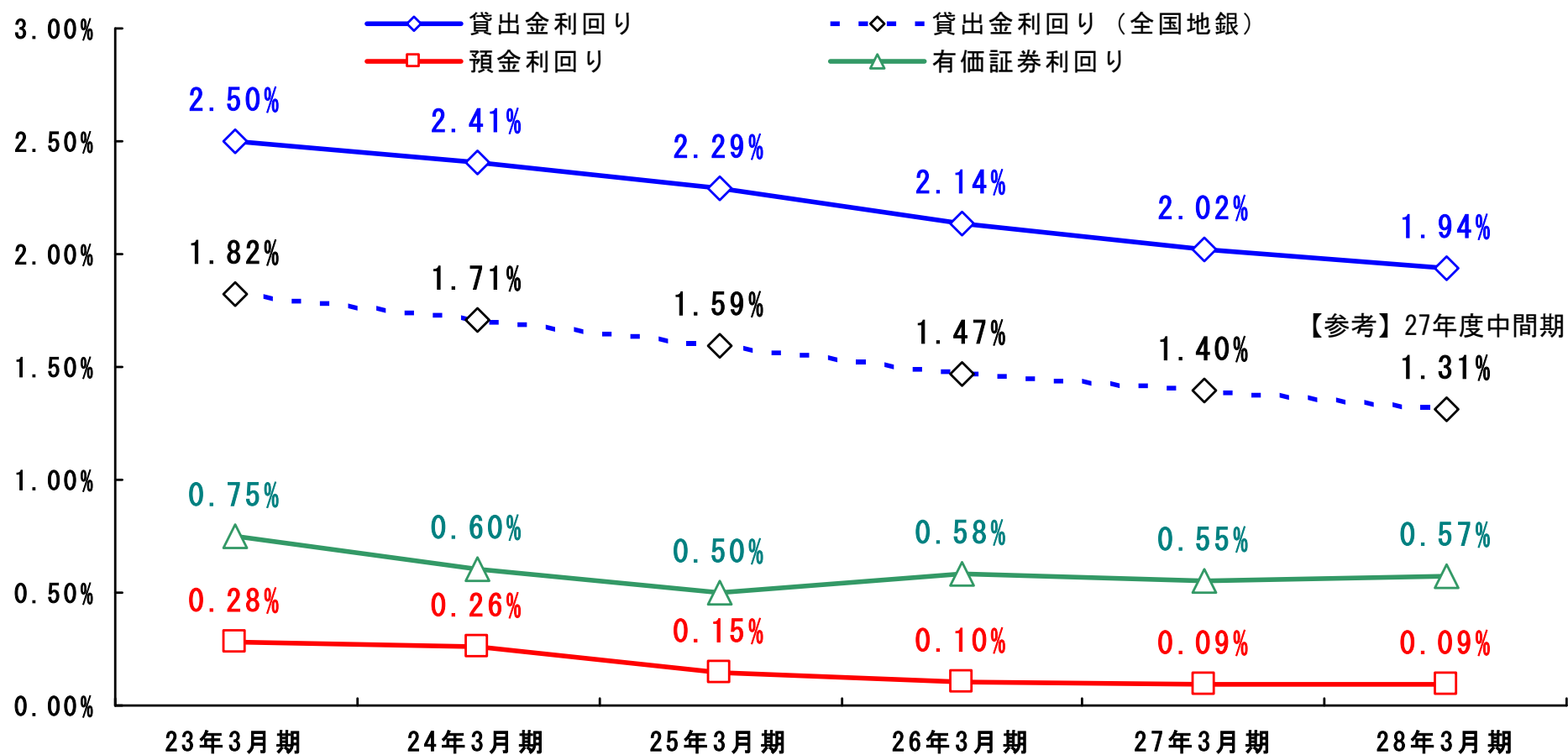


* 個人事業性貸出が含まれないことからP7■貸出金の「個人」とは一致しない

■ 利回りの推移（単体）

貸出金利回りの低下基調が続く

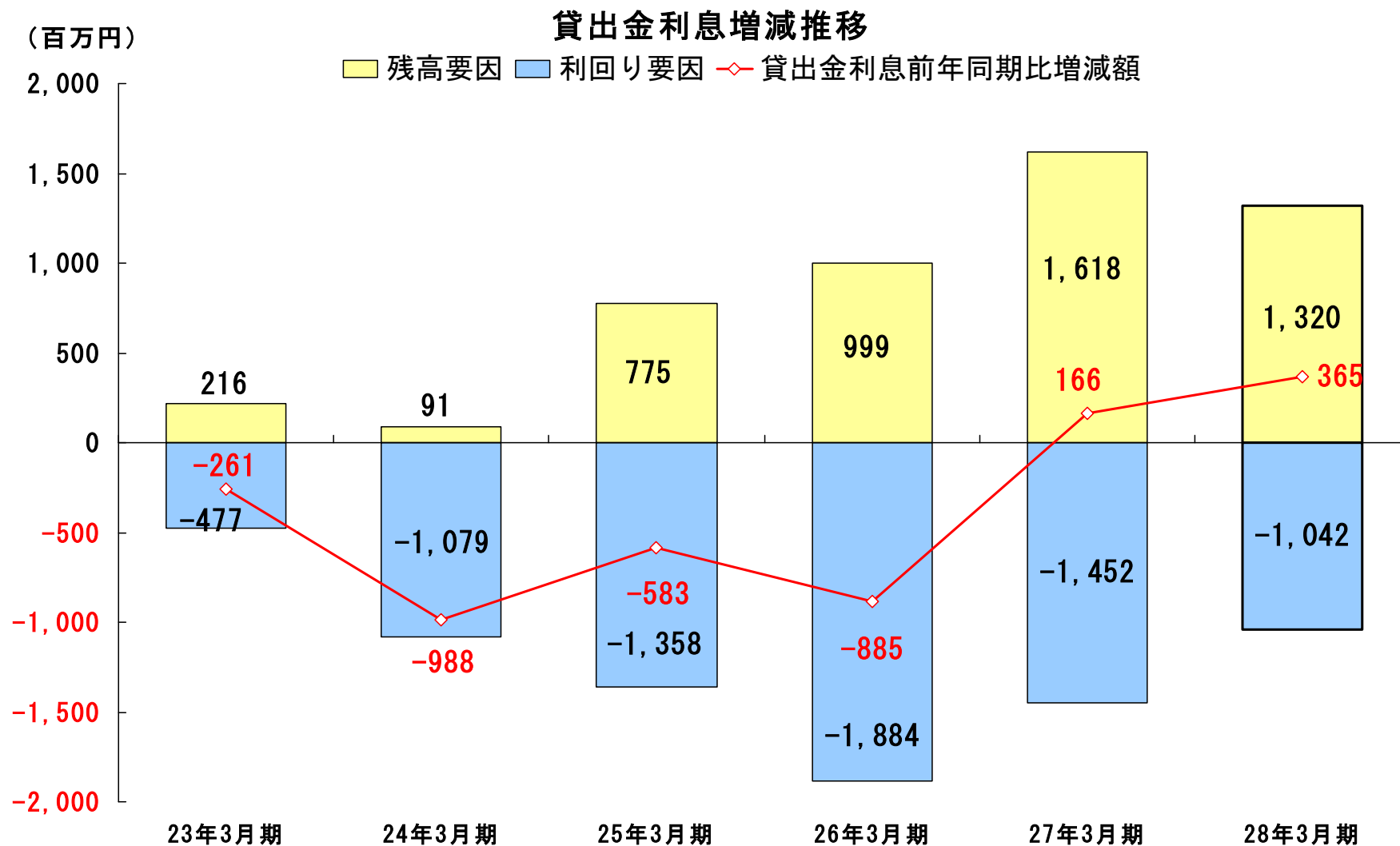
利回りの推移



* 「貸出金利回り（全国地銀）」は全国地方銀行協会資料より作成

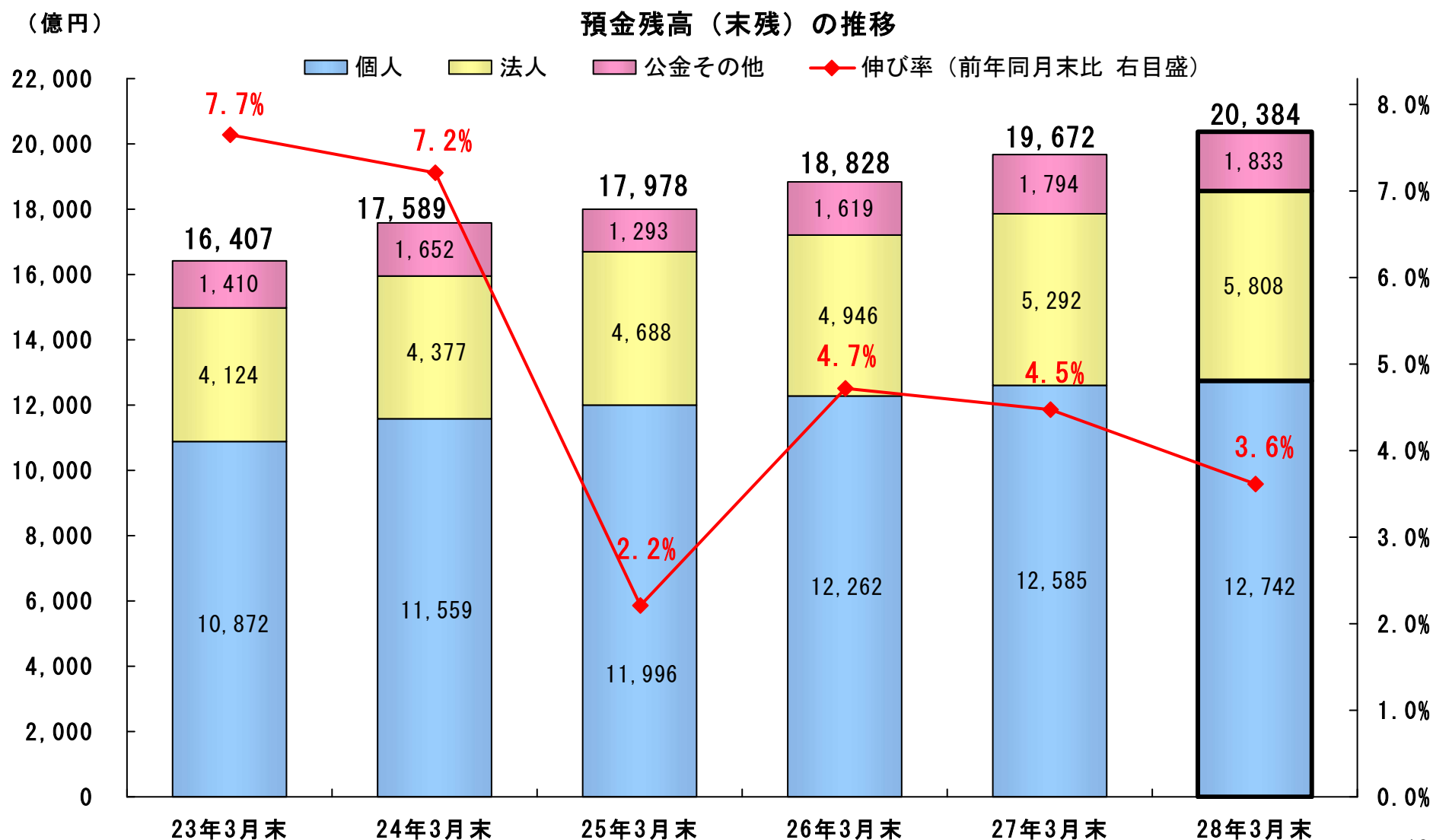
■貸出金利息増減額（単体）

残高増加要因で貸出金利息収入は2期連続増加



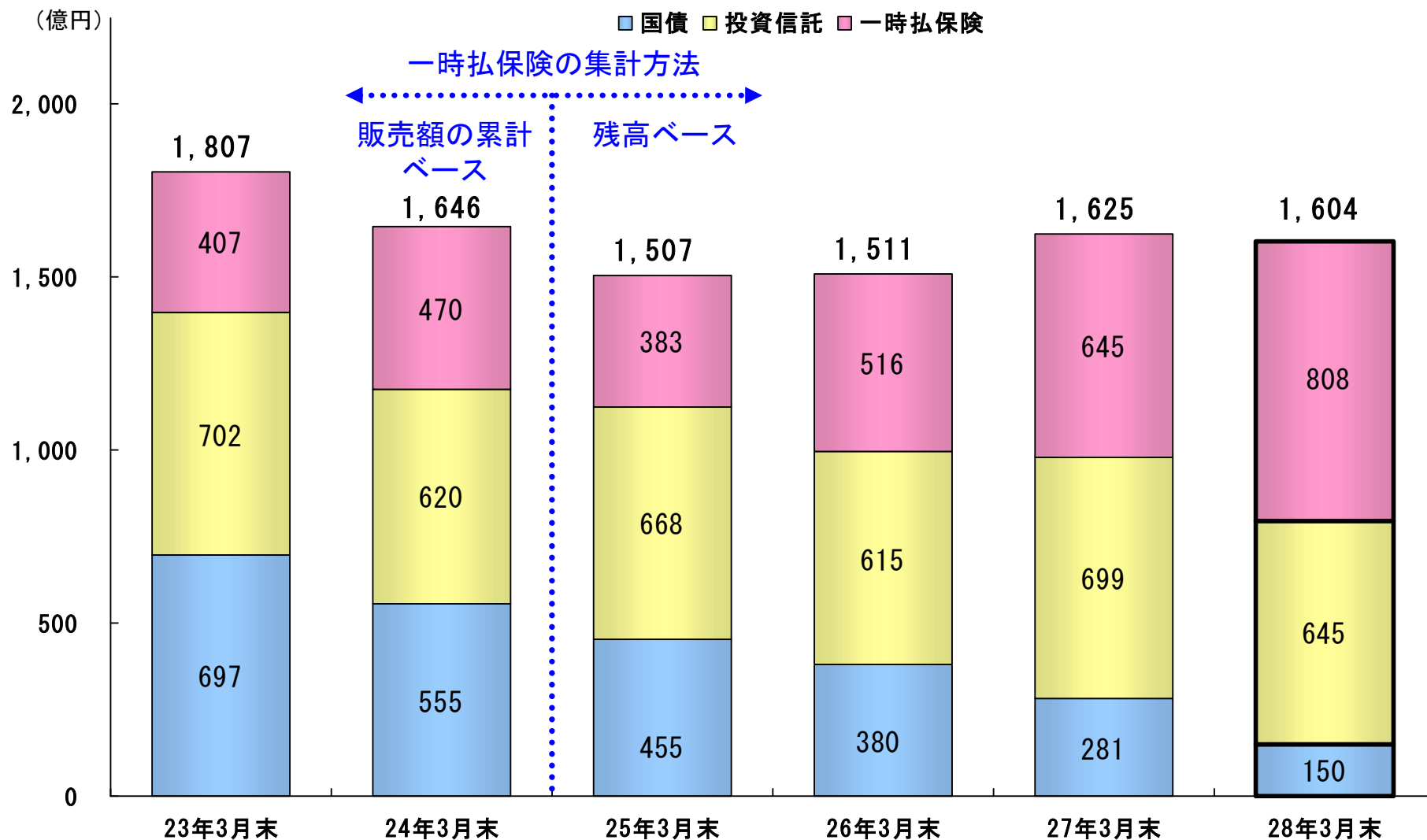
■ 預金（単体）

法人をはじめ個人・公金等幅広く増加し、2兆円を突破



■ 預かり資産（単体）

一時払保険は増加したが、投信、国債残高は減少

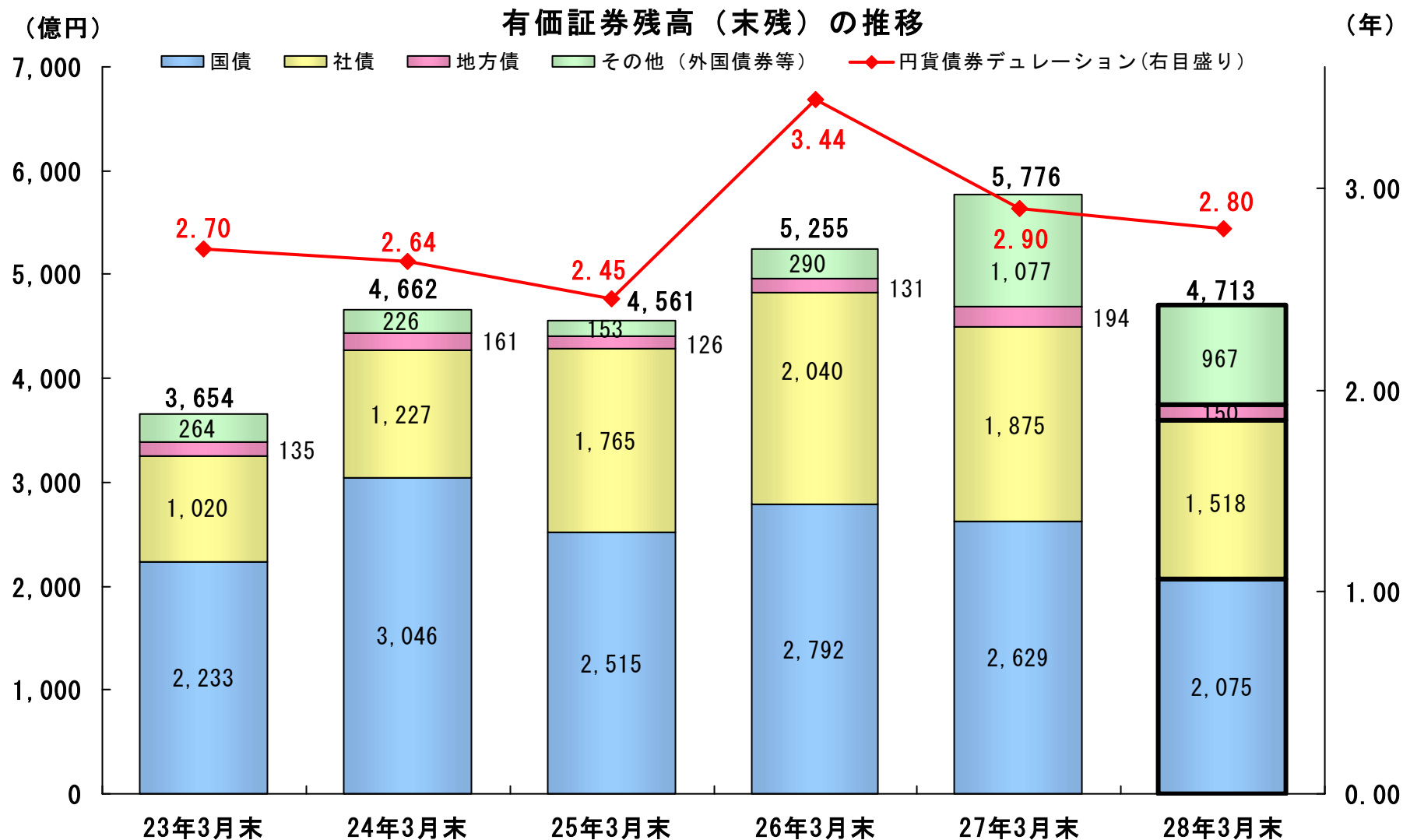


* 一時払保険：一時払個人年金保険、一時払終身保険、一時払医療保険

* 24年3月末以前と25年3月末以降とは、一時払保険の集計方法が異なるため単純に比較できない。

■ 有価証券（単体）

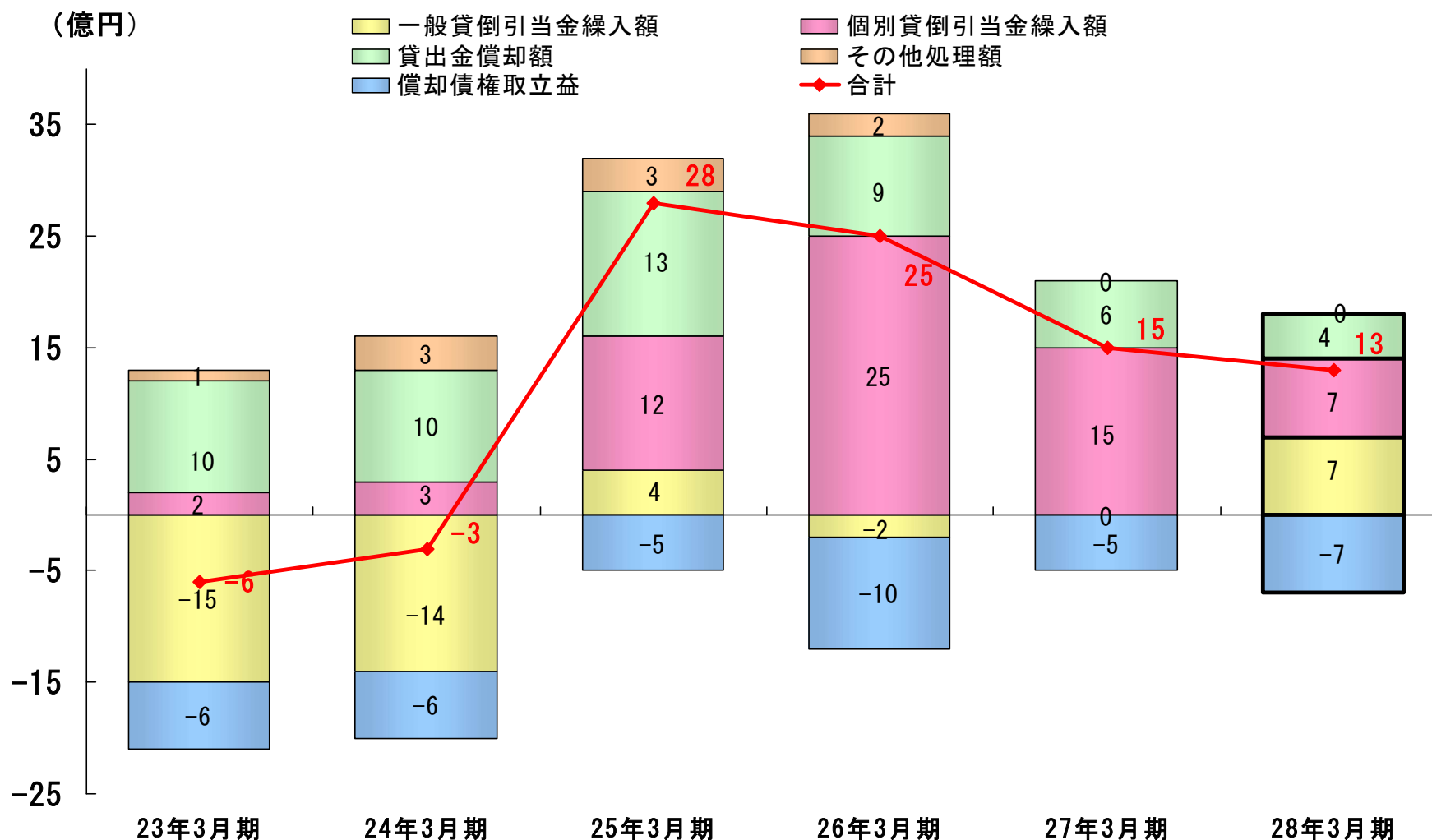
国債の償還等により残高減少



■与信コストの推移（単体）

個別貸倒引当金繰入額の減少等により与信コストは減少

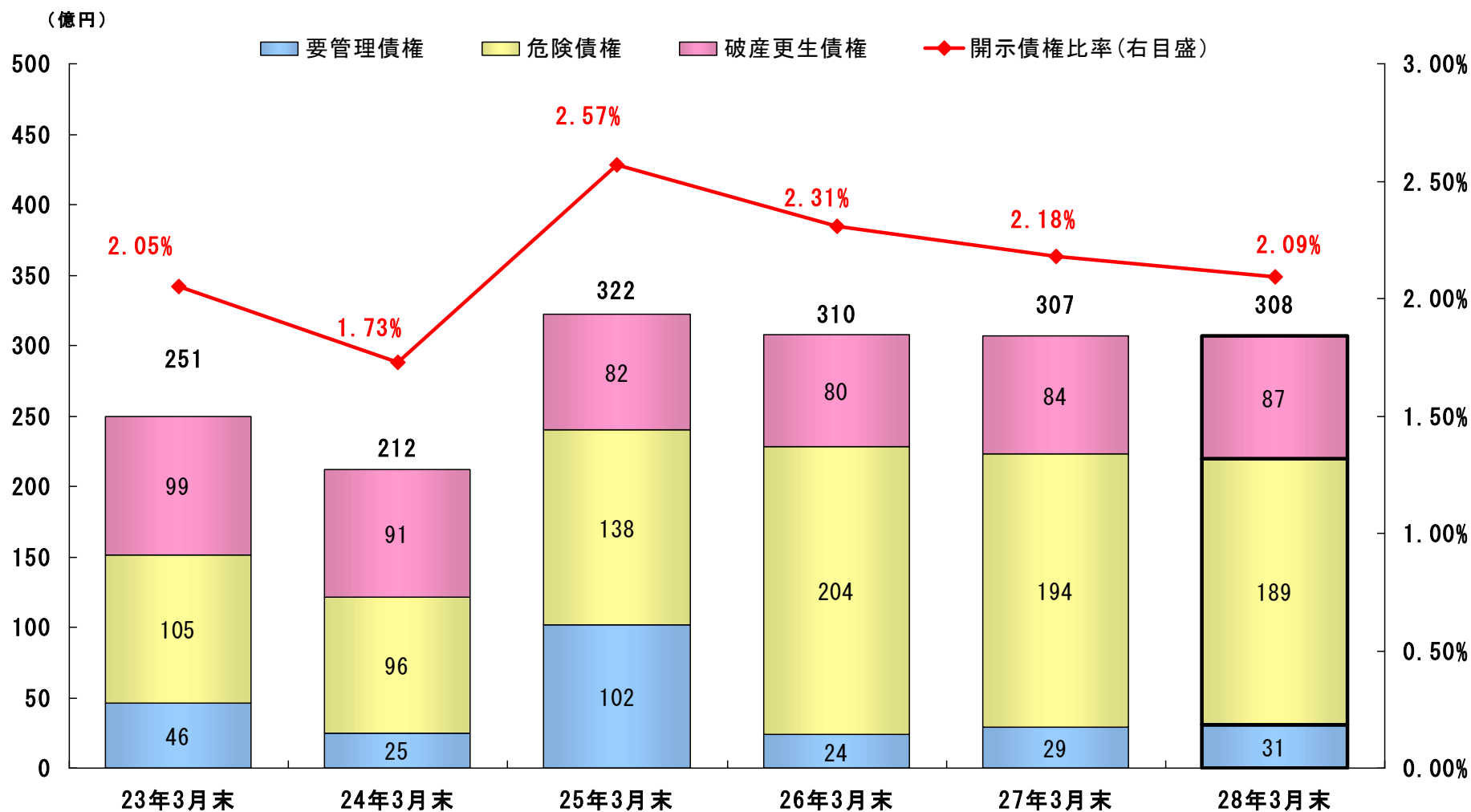
ネット与信コストの推移



■ 開示債権の推移（単体）

開示債権額はほぼ横ばい

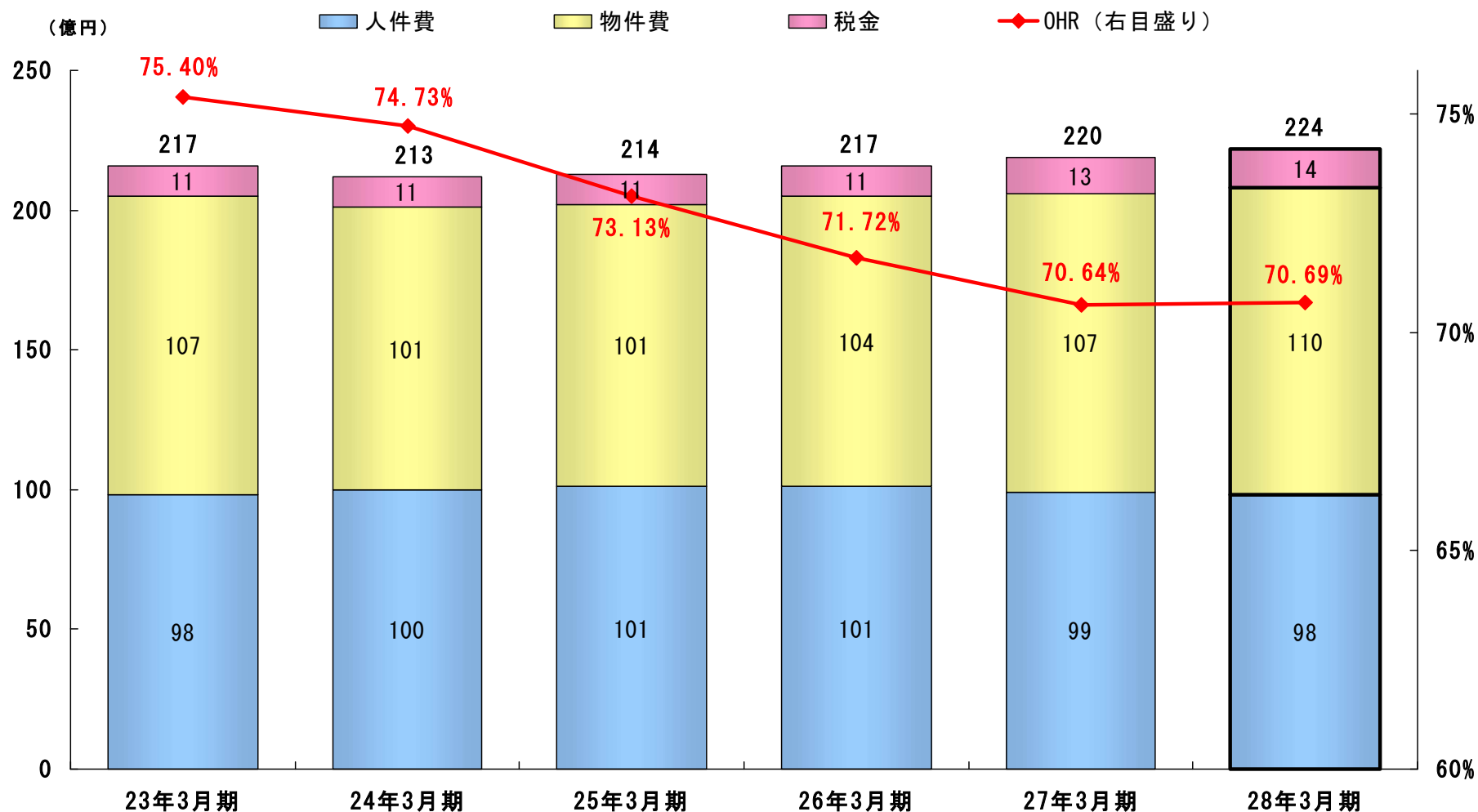
開示債権の推移



■経費（単体）

物件費、税金の増加により増加、OHRはほぼ横ばい

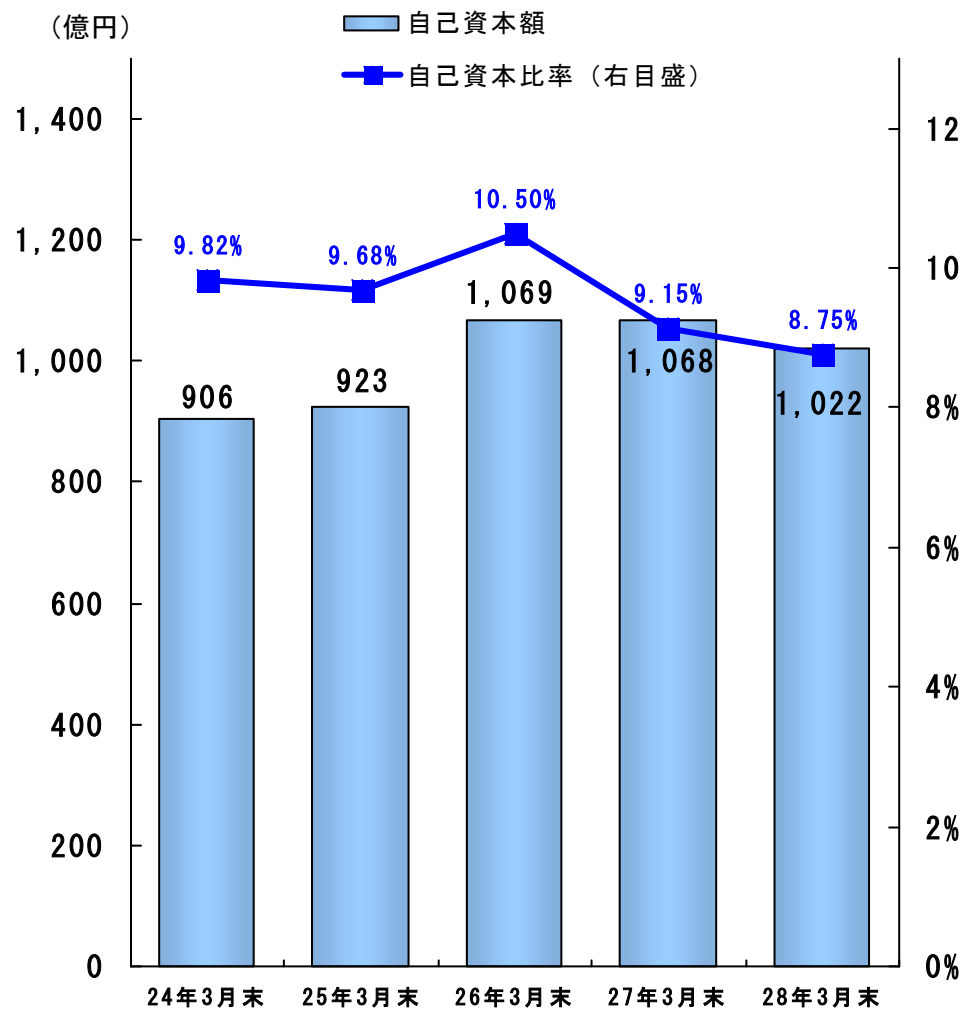
経費およびOHRの推移



■ 自己資本比率（単体）

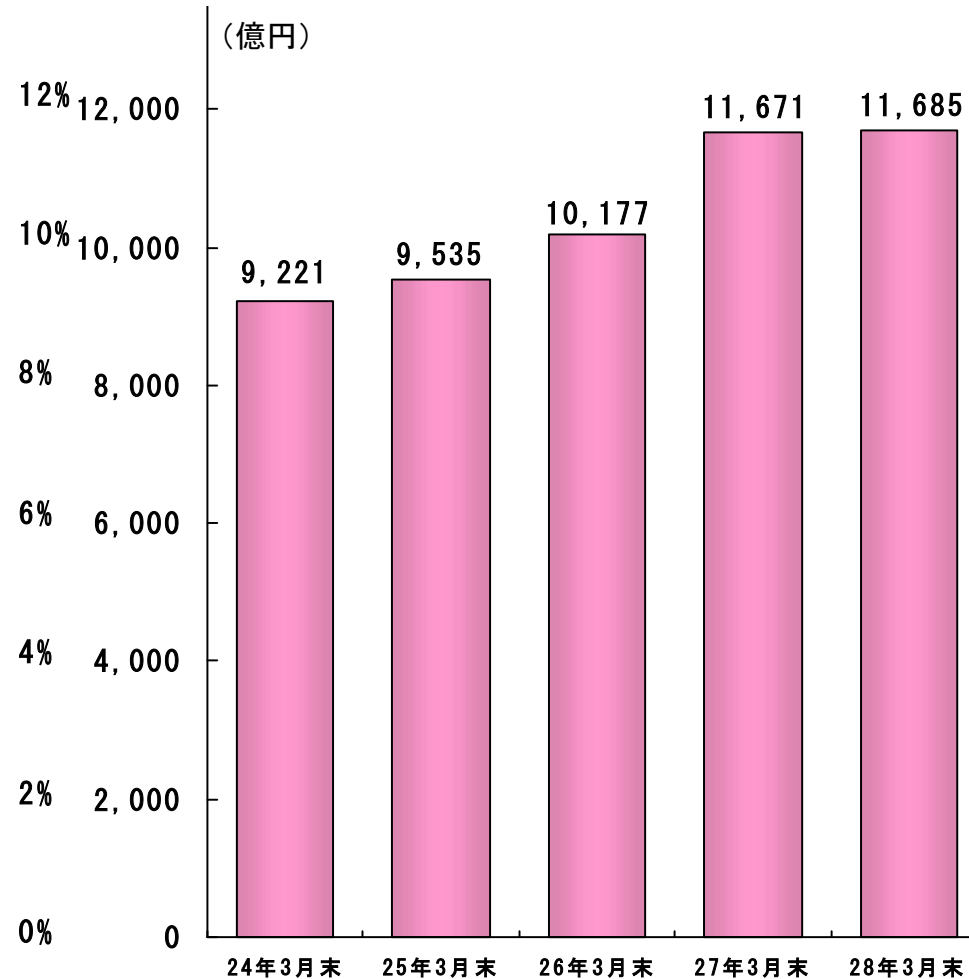
劣後債償還による自己資本額の減少で自己資本比率は低下

自己資本比率の推移



* 26年3月末よりバーゼルⅢ国内基準にて算出しております。

リスクアセットの推移



■29年3月期業績の見通し（単体）

当期純利益は7億円の減少を予想

（単位：億円）

	29年3月期		28年3月期
	予想	前期比	実績
経常収益	387	-15	402
経常利益	64	-19	83
当期純利益	43	-7	50

※前期比は表上計算

■29年3月期業績の見通し（連結）

負ののれん発生益の反動等により減益を予想

（単位：億円）

	29年3月期		28年3月期
	予想	前期比	実績
連結経常収益	590	-9	599
連結経常利益	77	-23	100
親会社株主に帰属する 当期純利益	49	-54	103
1株当たり年間配当金	35円	-	35円

※「企業結合に関する会計基準」の改正により「連結当期純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」に改正されています。

※前期比は表上計算

■本資料について

本資料に係るお問い合わせ先

株式会社 琉球銀行 総合企画部

Tel : 098-860-3787
Fax : 098-862-3672
e-mail : ryugin@ryugin.co.jp

本資料は、お断りのない限り単体ベースのデータとなっています。

本資料は、公表データの作成要領に基づき、項目ごとに単位未満切捨てで表示しているため、項目ごとの値と合計とが合わない場合があります。

本資料には、当行に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する情報（将来情報）が含まれています。これら将来情報は、あくまで平成28年5月12日現在において入手可能な情報に基づいて判断されたものであり、将来の業績等を保証するものではありません。また、将来情報の記述には一定の前提・仮定を使用しておりますが、かかる前提・仮定は客観的には不正確であったり、将来実現しない可能性があります。その原因となるリスクや不確実性には様々なものが含まれますが、その詳細については当行の決算短信や有価証券報告書等をご参照ください。なお、当行は本資料に含まれる将来情報の更新はいたしません。